

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 5月24日 更新

事務事業名		合志市市民大学事業					☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会事務局	課長名	上原 哲也
	施策	21	生涯学習の推進					所属課	生涯学習課	担当者名	斉藤 明子
	基本事業	69	生涯学習施設(環境)の整備					所属班	生涯学習班	(内線)	1513
予算科目		会計一般	款 10	項 5	目 3	事業連番 11348	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑦ コスト削減優先度評価結果 : ⑥			
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 21 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	生活や地域の課題に対応するために幅広い知識や技術の習得を目指す市民に対し学習機会を提供するため、市と連携する県内の高等教育機関等の協力の下、市民大学を設立し各種講座を開講した。 「天文・宇宙」をテーマに3コマの連続講座を実施した。 すべて本市と学市連携協定を結んでいる大学の教授・准教授を講師とした。
【業務の流れ】	①テーマ及び講座・講師の選定。②講師の依頼。③受講生の募集。④講師との打ち合わせ。⑤講義の準備。⑥講師謝金等の支払い。
【主な予算費目】	報償費(講師謝金)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	毎回、講義終了後にアンケートをとっているが、受講生からは、次年度に学びたい内容やなどについての意見や要望が寄せられている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
24年度は、11月～12月にかけ「天文・宇宙」コースを3コマ開催。各講座は、毎週土曜日の午後1時30分から開講(1時間30分程度)。今年度の開催日時は、交通手段を持たない方が、会場のウィーブルに来ることができるよう、レターバスや循環バス、乗り合いタクシーやその他の公共交通機関の運行時間に合わせて設定した。		「合志市1300年の歴史事業」として、合志の歴史や文化、自然等を題材とした4回の講座を開催する計画である。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:開講講座の回数	回	開催回数の減による報償費(講師謝金)の減
→イ:受講生数	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民		→ア:市民
		→イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
幅広い知識や教養を身につけることができる。		→ア:幅広い知識や教養を身につけることができたと考える人数
		→イ:
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
①活動指標	ア 回		11	8	6	3	3	3	3	3
	イ 人		140	215	120	90	120	120	120	120
②対象指標	ア 人		55,828	56,638	56,500	57,501	57,501	57,500	57,500	57,500
	イ									
③成果指標	ア 人		140	157	50	50	50	50	50	50
	イ									
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	122	149	30		10		
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	78	11	90	60	70	120	120
	(A)事業費計		千円	200	160	120	60	80	120	120
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
			千円							
人件 費	正 規 職 員 従 事 人 数		人	1	1	1	3	1	1	0
		延べ業務時間	時間	450	100	400	120	400	400	400
	(B)人件費計		千円	1,854	403	1,615	488	1,615	1,615	1,615
トータルコスト(A)+(B)			千円	2,054	563	1,735	548	1,695	1,735	1,735

事務事業名	合志市市民大学事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-----------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 25年度は、「合志市1300年の歴史事業」として、合志の歴史や文化、自然等を題材とした講座を開催する予定であり、住民の関心も高いと思われるため。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 アンケート等から得た、受講希望者が学びたい分野やテーマ等の講座を開催するなどして、内容をより高めていく。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 各課で行っている講演会や講座などと連携することで、成果の向上が期待できる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費のほとんどは講師への謝金であるが、主に市と学市連携している大学等から低い金額で大学教授などを招聘しているため。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費のほとんどは講師への謝金であるため、正規職員以外の職員や外部委託する場合、別に人件費や委託料が発生してしまうため。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 受講者は受講料を支払っており公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 受講生や市民の中から有志を募り、ボランティアの市民大学友の会や運営委員会といった組織を立ち上げ、ここに講師の選定や打ち合わせ、受講生への連絡、講座当日の受付等を行ってもらうことで、市民自身が行政とともに学びの場を作り上げていくことが今後の活性化に繋がる。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

現在のところ、各講座の受講生数が当初の予想より少ないが、アンケート結果等をみると満足度は高い。今後は、募集のやり方などに工夫を加えて、受講生の増加を目指したい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持		○																									
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												